

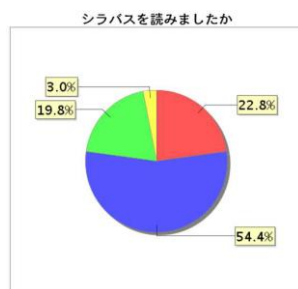
前期授業評価『学生から教員の方々へ』

平成 30 年度前期に全学科で、学生による授業評価を実施しました。結果のまとめを以下に示します。

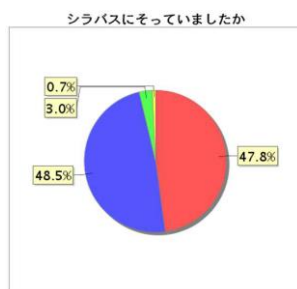
□ 講義系授業の結果



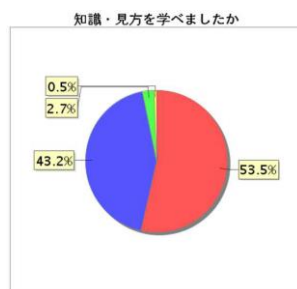
□ 実技系授業の結果



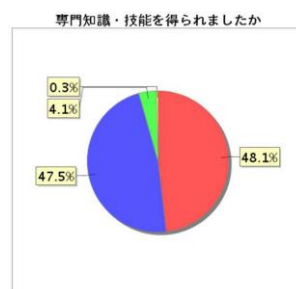
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



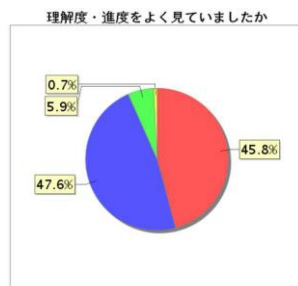
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



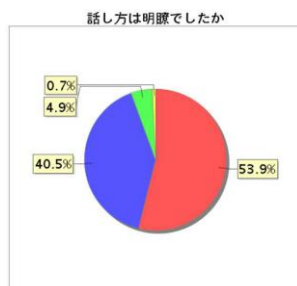
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



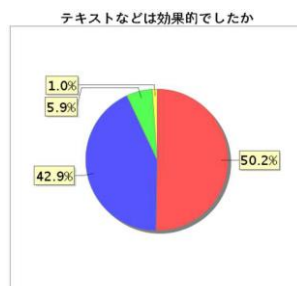
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



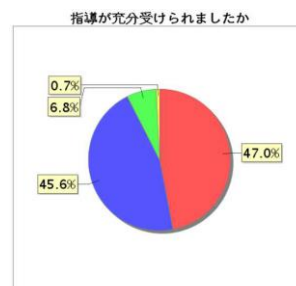
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



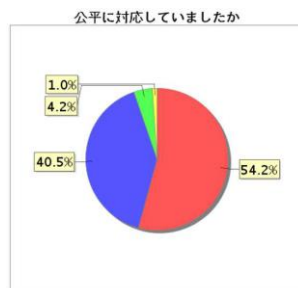
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



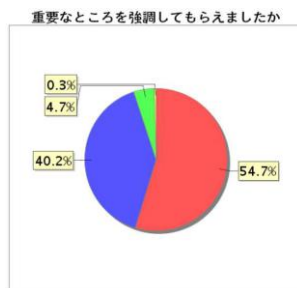
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



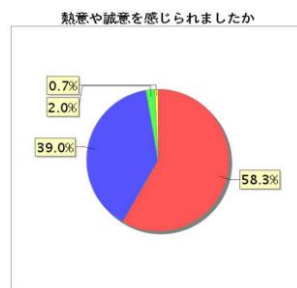
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



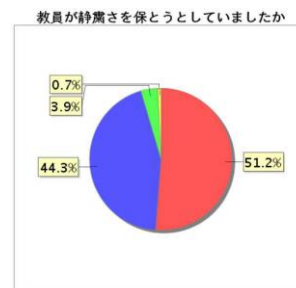
●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●しっかりできた ●だいたいできた
●あまりできなかった ●全くできなかった



●とても良い ●だいたい良い
●あまり良くない ●全く良くない

<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 92.1%、実技系 96.1%となっており、多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 93.6%、実技系で 94.6%と、昨年度前期と同程度に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 93.2%、実技系で 95.6～96.7%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度前期と同じように、新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、86.7%の人は授業内容を概ね理解できていますが、昨年前期（91%）と比較すると理解度がやや下がっています。

昨年度も課題であった講義系の“授業以外の学修”については、予習や復習が出来なかった学生が昨年度前期 24%、昨年度後期 28%から大幅に減少し、19.9%でした。教員による呼びかけや、具体的な時間外課題の提示などが効果的だったのではないかと思います。“シラバスを読んだ”人は昨年度と同様に、講義系で 86.1%実技系で 77.2%と多く、シラバスの確認は定着してきたようです。授業を受ける前に、授業目標や到達指標などを把握し、毎回の授業内容や小テストなどを踏まえて学修計画を立てて取り組みましょう。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 88.4～90.6%で、多くの学生にとって満足度の高い授業であったようです。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 92.6～94.9%と、昨年前期同様、高評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについては、講義系で 89.7～95.4%、実技系で 95.5～97.3%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。以上のように本年度前期も多くの教員が熱意をもって授業を行っており、学生にもそれが伝わっていることが示されました。

前期授業評価『教員から学生のみなさんへ』

平成 30 年度前期授業評価に対する教員（非常勤を除く）から学生のみなさんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 幼児の運動と遊び I

1. 授業評価の結果に対するコメント

保育者を念頭に実施する科目として、学生たちの学ぶ姿勢が素直に表れた結果であったと思います。授業の評価としては、教員に直接関係のある「成果への指導」や「公平」という点では、努力が必要であると感じました。設問 17 に関しては（注：改善した方がよいところとして「体育館が暑い」という意見が多くあった）大学として改善の工夫が必要であると思います。設問 16（受講してよかったこと）では、「出来た！」や「嬉しかった」等、授業を通して体験したことが喜びや達成に繋がっていることに大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

2. 今後の授業における目標

今後は、指導方法のより良い工夫と努力を怠らず、受講生が心から楽しむことが出来る授業を展開していきたいと思います。また、保育者を目指す学生たちが実習や研修において力を発揮することができるよう、最後まで見守る指導を心がけたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

まずは自分自身が楽しむこと。「楽しむ」ということには、「真剣にする」ことが必要です。この真剣にするかどうかは、自分自身が決めることです。他者が決めることなく、自分で決めることができます。自分で決めた行動が応えにつながると思います。授業を通して、あなたの「楽しみ方」を見つけてください。

◆ 造形表現 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

保育内容の指導法（造形表現 I）は免許・資格にかかわる科目となっています。昨年 4 月に行ったアンケートでは図画工作を「嫌い・苦手」と答える学生が約 8 割いたことから、昨年度一年間と今年度前期にかけて、例年にも増して、苦手な学生でも表現を楽しめる様な、少しでも自信が持てる様な制作内容を行い、一人ひとりへの言葉かけ、作品へのコメントなどを意識して行ってきました。

多くの自由記述から、学んで欲しい様々な表現方法や対象年齢に合った表現方法、制作方法を楽しく習得している様子が伺え嬉しく思います。また、幼児期に十分に経験させておきたい感触遊びについて、保育者となる学生自身が実際に様々な素材から粘土を作り、遊ぶことによってその効果を感じていることが分かり、ぜひ保育現場でも生かして欲しいと思います。

また、保育園や幼稚園での実習でも授業で行った数々の制作や造形あそびが生かせそうであるとの記述がありました。ただ授業を受けているだけでなく、実際に現場で行うとしたらどんな事に注

意しなければいけないのか、年齢別の配慮は何か、下準備や準備物、所要時間などを毎回制作レポートに記入しているので、それらを是非活用して、実習や就職後にも子どもの造形表現を楽しみながらサポートして欲しいと思います。

この学年はどの学生も折り紙帳の仕上げが大変美しく丁寧に出来ています。毎回折り紙制作の仕上げは宿題になっているため大変ですが、力になっていると感じますので、ぜひ後期も手を抜かず頑張って宝物の折り紙帳を作って頂きたいです。

2. 今後の授業における目標

自由記述には「新たな表現方法を学ぶことが出来て良かった」という意見や「実習で部分実習で使える技術を学べた」という意見が多くあり、今後も学生の知らない、楽しい造形表現を学生に経験させながら、幼児の造形表現について十分な知識と理解のある保育士を育てていきたいです。

また、各制作の前に評価の観点を説明して、ループリックを活用しながら評価をしてきましたが、更に強調するべきところが伝わるような話し方や資料の作成に心がけ、作品や制作過程に対して更に個別に声を掛けながら指導の充実を図り、個々の満足度を上げられるようにしていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

造形表現では、作品を丁寧に完成させること、作品と制作過程を振り返りレポートを書くこと、また毎回折り紙に取り組み折り紙帳を作ることが課題となっています。欠席や忘れ物があると作品を完成できず評価することができません。忘れ物のないように、しっかり取り組んでください。欠席した場合は授業内容や提出物などを確認に来てください。また、制作レポートは書式を見直し改良して皆さんの負担を軽減しながらも、ポイントの分かりやすいものにしています。感想ではなく、作品とその制作過程を振り返り、保育者としての視点で考察したことを書いて、提出してください。

◆ 保育原理

1. 授業評価の結果に対するコメント

保育事例が学生の学びとなっており、全体的な満足度にもつながっていることが分かりました。本科の1年次前期に学ぶ科目であることから、保育の学びの入り口的な意味合いもあり、事例を通して実践を楽しみにしてくれたことは、大いに嬉しく思います。事例をイラストや図等で視覚的に表す試みが好評であったため、今後も学生の学びやすさにつなげていきたいと思います。一部、PPの図表等が見辛い場面があったようなので、PP・室内環境ともに学生の受講しやすいよう改善していきます。

またゲストスピーカーの取り組みに関しても、学生がいつもとは一味違う視点から保育や自身のキャリアを考える機会となったようで、学生の有意義な学びとなるよう、今後も実施していきたいと思います。

2. 今後の授業における目標

引き続き、保育事例から、保育者としての基礎的な資質を養えるような授業にしたいと思います。また、学びを実践に生かしていくためには、保育実践をしたことがない学生がイメージをもてるような工夫も重要だと感じました。今後はイラストや図に加え、写真・動画といった視覚教材を用いて、学生が保育者の視点から事例を見られるようにしたいと思います。

さらに、アクティブ・ラーニングから自身の探求的な視点を養い、それぞれの学生らしい保育の

課題を見出す授業内容を重要視したいと考えます。

3. 受講学生に対する要望

保育技術の学びとして、毎回の授業冒頭で手遊びや絵本を扱ってきました。教室前方に来てくれたり、よくリアクションをとってくれたりしたみなさん、本当にありがとうございます。学生の「楽しい！」や「おもしろそう」というリアクションは、私のやる気にもつながりました。子どもと保育者の関係と同じですね。私も毎回とても楽しかったです。

私からの要望は、授業を通してみなさんが変わらず保育を楽しんでくれることです。

【 音楽総合学科 】

◆ 卒業演奏

1. 授業評価の結果に対するコメント

個人レッスンの授業であり、個々のレベルの違いによりシラバスが不明瞭であった面で如実に評価として表れた。

会議、出張等で各々日時変更が数多くあったが、学生は比較的好意的に捉えてくれていたようである。

2. 今後の授業における目標

- ・シラバス表記の改善を模索する
- ・可能な限り時間割通りにレッスンを行えるよう努める
- ・学生一人あたりのレッスン時間がやや短いため、同科目を1コマ増やす方向で考える

3. 受講学生に対する要望

卒業時、悔いの残らないような取り組みを！

◆ 音楽療法入門

1. 授業評価の結果に対するコメント

面白かった、新しい知識を得たというコメントがあったが、ホワイトボードの字が小さい、読みにくいという自由記述が多く、特に後ろの席の学生には不便であったかもしれないと反省した。

2. 今後の授業における目標

映像資料や実際に使用する楽器を体験してもらうなどわかりやすい授業を心がけてきたが、板書の文字も含めて学生に届くような提示をしてゆきたい。

3. 受講学生に対する要望

最後のアンケートで要望があったからわかったことであり、可能ならば見づらいと授業期間中に言ってもらえたらすぐにでも改善する余地があったと思う。今後は私からも見やすいか、わかりやすいかについては授業の最後ではなく途中でも正式ではなくても問いかけて意見を反映してゆきたいので、学生は遠慮せず意見してほしい。

◆ ウインドアンサンブル

1. 授業評価の結果に対するコメント

二年目を迎えたウインドアンサンブルの授業は、少しずつではあるが、自分の考える方向を向き始めた。まだまだ学生の評価は厳しいが、こちらの意図がよく伝わり、非常に意欲的に取り組む学生も増加し、5年後、10年後のウインドアンサンブルコースを見据えた授業形態を研究していきたいと考えている。

学外演奏での実践力養成は、演奏する目的や意識の根幹に関わる問題も含み、大変有意義な営みであると考えている。本学のPRにも非常に大きな役割を果たしている。そして、2月の定期演奏会。これにむけて、みんなで一つの音楽を作り上げるための合奏基礎力、演奏力の修得に力を注ぎたい。また、楽器店をはじめ、多くの音楽関係の仕事や、公務員、一般職に就く学生が、社会で有用な人物となれるように、「社会人基礎力」「人間力」を身につけられるよう全力で指導していきたい。学生からいただいた貴重な意見、特に指示の伝え方の工夫については、後期よりしっかりと実践していく所存である。

2. 今後の授業における目標

ウインドアンサンブルは、必修科目。従って、全員が演奏技術を向上させ、最後の定期演奏会で納得のいく演奏ができるように指導したい。そのために、「バンドスタディ」を使用し、合奏隊としての基礎力を養成するとともに、表現力向上のための講座を多く持ちたい。

小学校や幼稚園などの学外演奏の機会を通じて、学生が聴衆の心を揺さぶる感動を味わい、演奏する喜び、意義を見いだせるようにする。

授業を通じて、挨拶・笑顔・TPOに適した挙措動作、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーションの基礎となる自己表現力を身につけさせる。

3. 受講学生に対する要望

十分な個人練習の時間を確保して授業に臨んでもらいたい。積極的に、パート内、各パート間のアンサンブルを心がけてほしい。特に、管打楽器リペアコースの学生は、カリキュラム的にもかなり忙しく、個人練習の時間を確保することは困難だとは思いますが、事前に配布された楽譜について、音楽記号や作品・作曲家、時代背景等をしらべ、作品理解を深めてもらうと同時に、楽譜を丁寧にさらい、インテンポで演奏できるよう個人練習をしてもらいたい。

また、「社会人基礎力」「人間力」を伸ばすために、自己の人間的成長ができるよう、日々の努力を惜しまないでもらいたい。

◆ P・Or アンサンブル

1. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述のみの回答であったが、この授業を楽しく学ぶことができたとの回答が多くみられた。授業の性質上、楽しく取り組める内容ではあるが、「人と合わせる難しさや楽しさを学ぶことができた」、「一人の力では曲が仕上がらないので、責任感を持って授業に取り組むことができた」、「演奏を通して協調性を高めることができて良かった」などの記述もあり、この授業内容が単に楽しいだけでなく、学生はこの授業の到達目標も理解して取り組むことができたのではないかと思う。そのような難しさ、責任感、協調性などを踏まえながらも、「人と一緒に音楽を創り上げる楽しさがあつ

た」との記述もあり、学生一人ひとりがこの授業を通して多くのことを学んでくれたのだと感じた。

2. 今後の授業における目標

今回の評価のように、演奏スキルとともに、それに伴う責任感、協調性など、授業を通して社会でも必要となる力も身に付けられるようにしていきたいと思う。自分一人の演奏ではなく、人との関わりを通して創り上げる演奏の学修であるがゆえに、取り組みを通して様々な問題も生じることが、学生が悩んだり困ったりなどしていないか気を配りながら進めていきたい。そして、人との協同による演奏の喜びを実感してもらいたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

卒業後は専門職、一般職、進学などそれぞれの進路であるが、この授業で感じ学んだ様々なことを、それぞれの生活の中でも活かし、頑張ってもらいたい。

【 デザイン美術学科 】

◆ マンガ基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合的に悪い結果ではないと思うが、学生自身の取組評価で、「授業外」「知識や技能」が低いのは、課題の内容が、若干軽めであるのかと思う。もう少しボリュームのある課題を与えても良いかもしれない。

教員側への評価では、「資料の活用」の低さは、実際にほとんどの課題を、板書説明で行っているためであろう。「成果への指導」に関しては、実践的に指導を行っているつもりであるが、学生はフィードバックに物足りなさを感じているのではないかとも思った。

2. 今後の授業における目標

意識すべき点は、「資料の活用」「成果への指導」の2点。設問17の「改善したほうが良い所」に、プリントがあると良いという記述がある。持ち帰れる資料があれば、自宅での反復がしやすいという事も含まれているように思う。ここを改善することで、「授業外」での学生の取り組みが増す可能性があるろうし、提出された課題（成果）に対するフィードバックをさらに心掛けることも、技術の向上につながると思われるので、上記2点に留意していきたい。

3. 受講学生に対する要望

本授業は文字通りマンガの絵に関する基礎となる科目なので、一つ一つの課題を“教わった”で終わらせず、身に付くよう反復してほしい（ただ、それは「2」に記した目標と関わることであり、自身の反省すべき点だとも感じている）。

◆ 背景画基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね正しく評価されていて嬉しく思う。今まで自分が培ってきた知識・技術を正しく学生達に伝える事が自らの使命と認識しているので、今回の評価に満足せずこの先も一層の努力を続けていきたいと思う。

2. 今後の授業における目標

今回「資料の活用」の項目が唯一低かったが、それを実施するか否かは正直迷っている。何故なら学生たちは穴のあいたバケツでありその穴を塞ぐのが私の役目である。穴の場所・大きさは学生それぞれ違っており一つとして同じものは無く、だからこそ私の授業は全て個別対応を行っている。その為一度により多くの学生の弱点を克服させる魔法の薬を見つけるには時間もデータもまだまだ不十分であり、本学生にとってのそれが仮に現在存在したとしてもそれは書店や NET などですぐに入手可能な浅薄なものである。ここは大学でありこの場所でしか学べないものを提供するのが私の仕事と考える。やはりこの事について自らの教育指針を決定するにはまだ時間を要すると思われる。

3. 受講学生に対する要望

無し。毎回集中力を切らさずよくやっていると思う。

◆ 平面構成

1. 授業評価の結果に対するコメント

設問1にある受講して良かったところをよませていただくと、学生の声としてあがっていたことと、この科目の設置目的と比較的あっていたため、授業計画において大きな変化は必要ないように感じました。学生の声からは、「色使いや画面構成を魅力的に考えていけるようになった」「Photoshopの使い方が不安だったので基礎から学べて良かったです」「一人ではあまり学べないようなことが受講できて良かったです」とありました。科目の目的を常に意識し、学生と向き合い、状況に合わせた課題の在り方をこれからもしっかりと作りこむ必要性を感じております。

2. 今後の授業における目標

視覚表現のスペシャリスト、ジェネラリストを育成するうえで、基礎として把握し身につけていくスキルは何なのか？そして、今の受講生の特性を理解したうえで、スキル向上に必要な仕掛けは何なのかを常に意識し、テーマに基づいた色と形の適切な構成をしていく力を身につけてもらえるように精進したいと考えています。

設問2にある改善した方がよいところとして、『授業進度の早いときがある』『用語などでわからないところがあるので詳しく教えてほしい』『PowerPointの資料を、プリント配布してほしい』など、学生の要望を聴く機会ができたので、対応していきたいです。

気をつけたいのは、1年生前期授業であるため概要説明が多く、その中で基礎スキルを確実に付けてもらうために、知識として理解することより、技能として身につけることを優先する場面も多々あるため、学生への目的提示の在り方に工夫が必要と感じています。

3. 受講学生に対する要望

変化の激しい情報社会では、問題の多くは、「個別の案件対応」「暫定的処置」で対処していくことを、認識する必要があるでしょう。そうすれば、PDCAの有用性を理解することができると思います。

あるべき姿を見つめ、現状とのギャップにある問題と向き合ったうえで要因を探り、有効な対策立案をし、問題解決能力を身につけていけるように、一緒にがんばりましょう。

そのためには、行動することが1番です。自身の行動領域をふやして、頭で考えていることと実際にしてみたことのギャップを体験し、より精度の高い問題の要因発見能力を身につけていきましょう。

◆ 描写基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

おとなしく反応が薄い学生が多かったので、伝わっているのか? と心配していたが、デッサンに対する評価が、本人たちの中でしっかりできているようだったので、少し安心した。

2. 今後の授業における目標

学生からの発言の有無にかかわらず、もっと声をかけていきたいと思う。個々の実力を少しでも引き出す手助けをしていきたいと思う。

4. 受講学生に対する要望

わからないこと、知りたい技術、反論などもっと質問してきてほしい。

授業中に学生同士も含めディスカッションを多く取り入れていきたい。

【 歯科衛生学科 】

◆ 歯内療法学

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価については、自分の担当科目の得点が 3.1 で、全学の平均点の 3.3 ならびに学科平均点の 3.2 をやや下回る得点であったので、次回はさらにこの評価を上回るように取り組む所存である。

自己の取り組みに関する評価は、「学ぶ」の得点が 3.3 で 1 番高く、その他の項目も学科の平均点とほぼ同じか、それを上回るものであったので、今後もさらに向上するよう努力したいと考える。

一方、教員の取り組みについては、ほぼ全ての学科の平均点を 0.1 点下回る得点であった。この点については、自由記載欄に書かれていた「プロジェクターに映し出した文字が読みにくい」、「どこが国試やテストに出るか理解しにくい」ということが関係している可能性があると思われる。

なお、この科目の履修者は 46 名であるが、回答者は 28 名であったので、全員に回答するように指示する必要がある。

2. 今後の授業における目標

授業中に、教科書と配布物に、国家試験や定期試験の出るところを生徒自身にチェックさせるようにしている。ほとんどの学生は、必ず印をつけたりアンダーラインを引いたりして、勉強に取り組んでいるが、その一方で、前述したように「どこが国試やテストに出るか理解しにくい」と受け取る学生もいるので、より一層授業中に強調するようにする。

また、「プロジェクターに映し出した字が読みにくい」いうのは、おそらく現物投影機で写された文字だと思われるので、なるべく印刷物にするようにしたいと考える。

一方、「わかりやすい」、「歯内療法の種類の違いを明確に学べたのが良かった」、「たのしかった」という意見もあったので、今後は全員の学生からこれらの評価が得られるよう、配布物やプレゼンテーションの作成、および説明方法についてブラッシュアップをしていく所存である。

3. 受講学生に対する要望

授業中に勉強する上で重要な点（内容、図表など）あるいは、必ず理解しておかなければならな

い内容については、とくに強調して説明したうえで、チェックするようにしています。それらの点を特に重点的に勉強して下さい。

◆ 高齢者・障がい者歯科

1. 授業評価の結果に対するコメント

私は、当該科目の高齢者歯科（講義系）を担当している。学生の自己の取組では、学科平均とほぼ同値であり、教員の取組に関する評価も学科平均とほぼ同値だったが若干「参加」が 0.1 ポイント低く、「文字や書き方」が 0.2 高い結果となった。

学生の自由記述で良かったところは、「授業の終わりに確認テストがあり良かった。」「説明が分かりやすかった」「スライドが見やすい」等肯定的な意見があった。一方、「毎回配布プリントがなく、記入がないため睡魔に襲われる」といった意見もあった。この科目は、前半 8 週が「障害者歯科」、後半は私が担当で、2 人の教員が行っている。時間数に限りがある中、いかに学生が理解度を深められるのか至難の業だが、常に反省しつつ当面の課題を解決できるように努めていく。

2. 今後の授業における目標

学生からの改善点は、「毎回の配布プリントがなく、記入がないため睡魔に襲われる」という指摘があり、その解決策をあげたい。これまでもプリントは配布しているが、毎回配布していない。目標として、学生の学習意欲が向上するような内容のプリントを作成し、毎回配布するようにする。

予習は、現在の学生の学習態度から、実施するのは困難と感じる。確認テストや配布されたプリントをおおいに利用してもらい、復習をしっかり行うよう周知徹底していく。

4. 受講学生に対する要望

2 年生前期の時間割は、実技系科目が多く空き時間が少ないので体調管理に心がけて欲しいです。課題も多いため、自己の健康管理が出来るように授業準備をしっかり行いましょう。授業を漠然と聞くのではなく、疑問に思うこと、不明な語彙は自分で調べる努力をしてください。特に復習をしっかり行い、理解が深まると興味が湧いてくると思います。

◆ 口腔解剖学 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

本年度は全ての評価項目にて全学、学科の平均以上の評価を頂きました。また、「自己の取組に対する評価」では、授業外の学習という点で若干低めの評価でありました。しかしながら例年の学生と比較すると「自己の取組」という観点においては向上している印象を受けました。口腔解剖学は基礎科目であり、取りかかるのに若干億劫になりがちな教科であることが、授業外での学習への取組みという点で低いのかと考えられましたが、それであるからこそ平素からの反復の学習が重要であることを伝える必要性を感じました。

また、「教員の取組に対する評価」では全ての項目において平均以上の評価をいただきました。特に重要項目の強調、話し方、熱意や誠意、雰囲気といった項目にて高い評価をいただきましたが、試験への出否のみならず、最終的には全てが重要になってくるとことを伝えていきたいと考えております。また、資料の活用という点では大変骨の折れる作業でありましたが講義毎に資料を配布するように致しております。視覚的に捉えやすいように「動くスライド」を重視しているため、

紙媒体にした場合若干見づらい部分もあるかもしれませんが、後で見返せるのでそれで良しとせず授業内でしっかり咀嚼して欲しいと思います。

2. 今後の授業における目標

最も重要なことは学習意欲の向上であります。単に覚えるのではなく、理解することが大切です。極力、対話を重視した双方向性の講義を心がけているつもりではありますが、まだまだ不足している部分も多いと考えます。そのためには、今まで以上に積極的にコミュニケーションを取り、質問や発言をしやすい雰囲気作りを重要視していきたいと思います。

またコメントの欄でも記載致しましたが、講義毎の資料の作成、配布は非常に労力を必要とします。その中で本年度は学生さんからの改善点においてプリントが見づらい、というご指摘を多数頂きました。スライドをプリントとして配布しており、そのスライドが視覚効果を得る目的で動くため、直接書き込みづらい、とのご指摘だろうと思います。今後は、ご指摘いただいた点を十分に踏まえスライドそのものを配布するのではなく、画面と連動するように文書化した書き込みやすいプリントを準備して参りたいと考えております。さらに是非覚えておいていただきたい強調したい部分に関しては、より興味を持っていただけるように音声のバリエーションを増やしていきたいと考えております。

3. 受講学生に対する要望

自分自身のポテンシャルをもっともっと信じて欲しいと思います。壁にあたっても一つ一つ解決していけば、必ず目標を達成できるようになります。ひいては自分自身が育ち、自己学習、自己解決できる力を育てていただきたいと思います。その繰り返しにより本当の力が身についてくるものと考えます。

◆ 歯周病予防技術法Ⅲ

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価結果においては、【総合評価】だけでなく【自己の取組に対する評価】【教員の取組に対する評価】においても全学・学科評価を上回ることができホッとしている。この科目は相互実習が中心となるので、学生自身の実習に対する意識を保ち、技術向上・生体への配慮を考えた授業展開を心がけた。【自己の取組に対する評価】では、シラバスに関してのポイントが低い点が今後の課題である。【教員の取組に対する評価】では、話し方・強調・熱意や誠意などのポイントが高いことに関しては、技術的に高度な内容のため、その習得については丁寧な指導を心がけた。また、複数の教員が担当するため、指導内容の統一や公平性を図ることも必要であり、おおむね達成できたと感じる。

2. 今後の授業における目標

【教員の評価】より【自己の評価】のポイントが低いため、自己効力感の得られる授業展開を考慮していきたい。特に2年生前期の授業であり、習得した技術は後期から開始する臨床・臨地実習で実践する項目に直結している。ただ単に試験に合格するための知識・技術ではなく、社会の現場で生かせるものになるよう、自信をつけていきたい。授業内・外での練習時間も十分に設定しているつもりであるが、一部コメントには時間の不足を感じているようなので、時間の確保についても考慮していきたい。また、学生の習得進度は個々に差が生じてしまうため、今までどおり個別指導の充実を図っていくために、教員間での打ち合わせを密にし、向上心を生かせるよ

う授業を展開したい。また、少し手をかけすぎている点がある。学生の自主的な行動を促していけるような工夫も必要である。

3. 受講学生に対する要望

技術を習得するためには、授業時間内だけでは不十分であるため、繰り返し練習することが必要である。授業外でも積極的に自主練習するように努めてほしい。また、疑問点はできるだけその場で質問するなどして解決してほしい。知識は与えられた項目を丸暗記するだけでなく、自主的に学習し理解していくことが大切である。

◆ 歯科衛生士概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

教員の取組みに対する評価は、学科平均の点数であった。「話し方」「文字の書き方」については、少し低い結果であり、例年同様にプリントの穴埋め方式で、講義を聴きながら書きとめていく方式であるため、学生のスピードにバラつきがあり、時間が足りない学生もいて、「もっとゆっくり進行して欲しい」、話し方においても、「もう少しゆっくり話して欲しい」という要望があった。

「熱意や誠意」「強調」においては、重要なところは色分けしたり、プリントが分かりやすい、声が大きく聴き取りやすかったとあり、歯科衛生士の仕事や、自分の健康度など分かりやすく取り組めて良いとコメントを得ることができた。

学生の自己の取組みにおいては、特に「学ぶ」姿勢は、平均より高い評価を得ることができた。

2. 今後の授業における目標

来年度もプリントを活用するにあたり、内容や量について検討していきたい。また、話すスピードに気をつけ、間を少し多めにするよう心がけていくことで、一層授業の理解を得られるように改善していきたい。

3. 受講学生に対する要望

テキストと併せて講義をしています。必要なところは、まず、ラインを引くなどの受講態度を身に付けてください。後で復習しやすくなると思います。前期最初の授業として、これからの3年間、授業を意欲的に取り組むきっかけになって欲しいと思います。

◆ う蝕予防処置法Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は1年生後期に、う蝕の検査やフッ化物の作用機序、薬液の濃度などの講義をうけてから2年生前期で、フッ化物塗布や洗口法を相互実習をメインに行います。

相互実習は興味深く出来ると思いますが、患者の体重から薬液量を導き出す必要があります。％やppmなどの単位が使われますので、苦手意識の強い学生には難しい実習ではないかと思います。そうであっても、「わかりやすく学べた」と思った学生がいたことをうれしく思います。逆に「分かりにくい部分があって理解するのが難しかった」との意見もあったので、今後はいっそう学生の理解度をみながら実習を進めていきたいです。

2. 今後の授業における目標

う蝕予防処置は歯科衛生士の業務でとても大きな役割なので、きちんと理解したうえで患者さん

へ施術してもらいたいです。そのためには苦手意識のある学生にも、受け入れてもらえるような実習にしたいと思います。自分自身の知識を増やし分かりやすい講義・実習を心がけ、う蝕予防処置が得意な学生を増やしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

実習も講義両方とも積極的に学べていたと思います。自己の取り組みに対する評価で、「授業外」の評価が低かったので、シラバスを確認して、1年生の時に学んだことを復習してから実習に参加すると、よりわかりやすく受講できるのではないかと思います。

◆ 発達口腔保健演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

わかりやすかった、丁寧に教えてもらえた、グループワークが多くて楽しかった、健康づくりのために歯科が大切なことがわかったというコメントをもらい、この授業を教えることが出来て本当によかったと思う。

この授業ではライフステージ別の保健指導の特徴を細やかに伝えるとともに、一貫して目の前の患者さまの心に寄添うことを教えた。これからの臨床実習でも忘れないで目の前の患者さまを受け入れてほしいと思う。

面白い話をしてくれたというコメントをもらったが、今までの臨床でまた地域でさまざまな年代の方々に接してきた経験談もまじえて、歯科衛生士としてどのように対応していくかを伝えたつもりである。いつか壁にぶつかったときに思いだして歯科衛生士としてつらい時は乗り越えてほしいと思う。

2. 今後の授業における目標

プリントがよかった、配布プリントがまとめられていてテスト勉強に役立てることができたというコメントをもらったので、今後も配布プリントはわかりやすくポイントを絞って作っていきたい。伝えたいことが自分の中で多くてスライドの枚数が多くなってしまい、スライドを進めるのが早いときがあったようなので、今後は時間配分に見合ったスライドの枚数を考えて、授業を進めていきたい。

自分が臨床や地域の方々と関わってきた実際の経験をもとに、自らの健康に関心の少ない青年期の学生に要介護者や認知症の方々への対応を細かく伝えて行くことの必要性は非常に高い。必ず学生の心に響くと信じて今後も授業の中に取り入れていきたいと思っている。

3. 受講学生に対する要望

発達口腔保健演習という科目では、1年生の発達口腔保健学で妊産婦期から幼児期まで勉強し、この科目では、学童期から高齢期、要介護者、障がい者まで各ライフステージごとの歯科保健指導を学びます。各ライフステージで歯科衛生士になったときにその特徴を踏まえて保健指導をすることが前提となるので、各ステージで理解してもらいたい部分の確認のために試験を行います。テスト範囲を減らすことはできませんが、必ず実践に役立つ内容を盛込んで授業を行いますので学修していただきたいと思います。

【 看護学科 】

◆ 解剖生理学Ⅰ、Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

①看護につながるような説明をしてほしい、看護に必要なところだけを → 解剖生理は人体の最も基本的なことを講義します。すべて看護に多かれ少なかれ関係しています。看護に必要なところはすべてとなります。看護に必要なところだけはありません。

②単元に対する答えを最後まで言ってほしい。答えは何番とはっきり言ってほしい。問題を解く形式なら答えを最後まで言ってほしい。答えが最後まで聞こえなかったところがある。マイクを使って大事なところを明確に講義してもらいたい → 当初、マイクの充電がなされていなくてマイクなしで授業をしたことがあります。このためこれらの要望が多かったのだと思います。試験は授業の時に出した問題から出すと約束したのでこの不満が多かったと思います。回答集をクラウドに出してしまうと、問題の丸覚えになってしまう可能性がありますので、どうするか迷っています。回答の答えを聞き取れるようにします。それより聞こえなかったら遠慮なく聞いてください。

③病態とごっちゃになる、病理のことが結構出てきたので難しく理解できなかった → これは確かに最初から関連等を理解するのは難しいかもしれません。しかし必要です。あせらず、その後の病態・治療・看護の分野でも持続してやっていくしかないと思います。

④ドライブで授業をしているので紙にメモ書きはできなかった。教科書で進めてほしい、ドライブを使うとインストールするのに時間がかかる。プリントがほしい → ペーパーレスの授業は続けるつもりです。せっかく全員が iPad を購入したのでですから。前もってドライブに載せてあるわけですから、ハードコピーのほしい人は前もってプリントアウトして授業に持ってきてください。WiFi 環境の整備も必要ですが。

⑤パワーポイントのどこが大切でどこを覚えたらいいのか全くわかりません。パワポが見づらい、どこが大事かわからない → 少しがんばりすぎてパワーポイントの枚数が多くなったようです。もう少し絞るよう検討する予定です。

⑥沢研究所のヒトのように面白く判りやすい授業をしてほしい → さわ研究所の方と近く面会予定ですのでいろいろ教えてもらいます。

2. 今後の授業における目標

解剖生理学は最も基本的な分野で、丸暗記するところも多く、面白くない授業の代表かもしれません。しかし、すべての基礎で、病態、看護等を理解するうえでこの知識がないと、上っ面の理解となります。従って繰り返し覚えるしかないのです。近道はありません。後に学習することになる病態・治療・看護とつながって本当の解剖生理学の重要性がわかると思います。当初はひたすらできるだけ多くの頃を覚えるしかありません。解剖生理学でどこが大事かも、その後の病態・治療・看護の分野の進歩によって変わってきますので絞ることは難しいと思います。

3. 受講学生に対する要望

覚えることが多いので、今は授業中に国家試験から出た問題を中心に解説し、そこから定期試験の問題を出しています。前もってクラウドに出してあるわけですから、予習してきてください。実際に予習している人は問題の正解率から見ると少ないようです。予習は必ずしてください。また、本来は定期試験に出す問題を決めて試験を行うのではなく講義したところから問題を出したいと思いますが、時間数とその内容から難しそうです。

◆ 病理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ① 視覚的に興味もてる授業を心がけた
- ② プリントにて要点を明確にした
- ③ 国試を意識した授業を心がけた

学生は①～③の意図を理解してくれた。

2. 今後の授業における目標

学生が授業の要点を理解しやすいように、さらに工夫した授業を心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

看護師の国家資格を合格するためには、多くの医学用語に興味がないと困ります。
そのためには、自主的な勉強意欲が必要です。

◆ 看護過程演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

「看護過程は、一度聞いただけで分かる内容ではありません。自分から学び取ろうと思って学ばないと自分のものになりません。」と授業を始める際に話しました。授業を進めるにあたっては、疑問を疑問のままに残さないよう、講義終了時に書いてもらう質問やリクエストに、次の講義の冒頭でできるだけ丁寧に答えることを心がけていったつもりです。授業中盤からはたくさんの質問をもらい、時には質問への回答に30分以上かかることもありましたが、そして授業中の皆さんの様子や感想から、皆さんが講義に集中し理解しようと努力する姿がよく分かりました。この授業に対して皆さんから思わぬよい評価を頂戴し嬉しく思いましたが、私も皆さんとのやりとりがとても楽しかったです。

2. 今後の授業における目標

今後も学生の皆さんが主体的に参加できる授業を工夫していきたいと思います。

伝えたい内容が多く、つい話すスピードが速くなってしまって、聴き取りにくいこともあったかと思っています。聞きやすい話し方になるよう心がけていきます。

3. 受講学生に対する要望

分からないことは分からないと言ってよいです。皆さんがどこまで理解し、どこが分かりにくいのが分かれば、教員は皆さんが分かるようになるための努力をします。「学ぶとは、分からないことが分かるようになること、できないことができるようになること」です。学びのサポートをするのが教員の役割ですから、教員をもっと活用してってください。

◆ 母性看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的には概ね良好な評価でしたが、項目別では、「自己の取り組みに対する評価」のシラバスについて、他の項目に比べ低い結果でした。学生がシラバスの活用について理解し、より能動的に学習に取り組めるような支援を工夫したいと考えています。

学習態度に関する学生自身の自己評価が高かったことは、学生が自身の努力の成果を実感できたと推測され、大変望ましいことです。実際に、毎回の授業に対するリアクションからは大変関心が高まっていることが伺え、各自が作成したポートフォリオはどの学生もよく学習した秀逸な内容でした。自己学習方法に迷う学生に対しても、その学生に合う、より具体的な学習方法を自分で見つけられるよう例示し、学生の熱意に十分応えていきたいと思います。

小テストについては、授業内容について特に重要な箇所を毎時理解していただき、学習の積み重ねによる知識の定着が進むよう、厳正な方法で継続していきたいと思います。

空調については、学生の要望に応じた調整を心掛けていますが、場所によって効き方が異なるようですので、さらに留意したいと思います。

2. 今後の授業における目標

- ・授業内容の精選による授業内容の充実を図る。
- ・より具体的な自己学習方法を紹介し、実習や国家試験対策で応用できる課題学習を支援する。
- ・臨地における最新の状況を知識と連結して学修できる場とし、引き続き関心の高揚を図る。

3. 受講学生に対する要望

この授業での学びは、2 年次後期の母性看護演習、3 年次の母性看護学実習、そして国家試験に直結するものです。周産期にある女性や新生児の正常と異常、及び家族を含めた看護、さらには現代のハイリスク化に伴う多様なケアの理解も求められますので、受講のみでなく日常的な自己学習の反復によりようやく補完されます。授業資料とテキストを十分に活用し、暗記することより理解して納得することに時間を費やしてください。容易に理解できない部分は何度でもわかるまで解説しますので、遠慮なく研究室を訪ねてきてください。皆さんが質問してくださる内容は、次の授業の改善に反映させたいと思います。

◆ 生活支援技術論

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の目的が達成できたという声が多かったことは大変よかったと思いました。また、率直な感想をもらい、自分の授業について振り返る機会となり感謝します。

いくつかのご要望やご意見について、以下に教員の考えを示したいと思います。

1) 教員によってやり方が違って戸惑ったことがあった

演習ではできるだけ丁寧に指導ができるよう複数の教員が関わります。教員は皆、臨床経験が豊富であり、それぞれが身につけてきた方法（看護技術の手技やコツ）に違いがあると思います。例えばリネン交換の際の手の使い方などは教員によって異なります。しかし、実は看護技術の手技はひとつではなく、重要なことは根拠を踏まえ原理原則に則って実践することです。それが患者、看護師両者にとっての安全・安楽に繋がるからです。今後は様々な応用が必要となっていくしますので、それぞれの教員が持っているコツにも是非注目してください。

2) 教員によって評価基準が違う

評価基準は、その技術のポイントとなることを示しています。それは授業でも強調していますし、試験前には改めて提示します。実技試験対策としては、早く練習を開始してその評価基準のポイントを理解すると、教員がどんなことで減点するかもわかるはずです。

また、教員は、実技試験の前には評価基準を合わせるためのリハーサルをし、試験後には判定

で迷ったケースについて教員間で話し合いをして、結果を出しています。試験直後に注意点を教員から指摘していますが、よく分からなかったという場合は、後日でも構いませんので是非教員に申し出てください。

3) 演習の進め方が早く、時間に追われ急かされ方法を身につけるまでできなかった。

初心者の学生にとっては、演習の中の短時間で急かされると十分な技術修得につながらないという意見をもらい、学生にとって技術修得には時間がかかるものだとして改めて実感しました。演習の際にも繰り返し説明しましたが、看護技術は1回実施したら身につくというものではありません。また、演習時間にも限りがありますので、まずは演習前に講義資料や手順書を読みなおして、内容を理解した上で演習に臨んでください。そして演習後も繰り返し練習をするためにセルフトレーニング室をもっともっと活用してほしいと思います。自主練習の際に助言・指導が必要であれば、遠慮なく教員に声をかけて下さい。

2. 今後の授業における目標

根拠がわかるように、また短い演習時間でポイントがわかるような授業の組み立てを工夫したいと思います。

3. 受講学生に対する要望

まずは予習をしてから講義・演習に参加してください。そうするともっと授業の内容が理解しやすく、そして楽しくなります。そして演習の後は、繰り返しセルフトレーニング室で練習をして下さい。まずは学生同士やモデル人形を使って、自然に体が動くようになるまで練習をして下さい。病院実習では実際の患者に対して実践しますから、もっと緊張しますし、患者に合わせた技術の応用が求められます。患者に迷惑をかけないように学内で基本技術を磨いておいて下さい。

◆ 成人看護援助論（慢性期）

1. 授業評価の結果に対するコメント

前年度はシラバスについての理解が十分にされていなかったことを受け、今年度は毎回の授業の中で、この授業では何を学んでほしいのかを強調してお話をさせていただき、次の授業でその学びを確認していきました。特に重要な項目については、時間をかけて繰り返し説明を行い、イメージしやすい日常生活の中での例を取りあげたり、覚えやすいように工夫をしました。その結果、「興味をもって授業を受けることができた」「今までわからなかったところもわかるようになった」など嬉しい意見がありました。しかし、今後は理解ができていない学生に焦点をあてて授業を進めるだけでなく、理解できている学生を対象とした授業内容の工夫も必要であると考えます。学生の理解度を確認しながら、今後も興味をもって学習できる授業を行っていきたいと考えます。

「授業の静粛な雰囲気を保つ努力ができていたか」という項目については、やや低めな結果だったため、教壇付近で講義するだけでなく、教室の後方の学生にも充分配慮しながら、学習しやすい環境を整えて授業を進めていきたいと考えます。

2. 今後の授業における目標

教育経験が浅いため、教授の仕方（技術や方法）については課題や改善すべき点がたくさんあります。学生全体の反応や、教室全体の雰囲気になんか目が向けられるように意識して取り組み、授業交流会を通じて、より効果的な授業ができる術を身につけていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

授業評価は今後の授業のあり方を考える上で貴重な情報となります。今回、回収率が少なかったですが、わかりづらかったところや改善してほしいことなども、遠慮なく意見を述べていただけるとありがたいです。

◆ 成人看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の資料として、授業の重要なポイントを学生自身でまとめることが出来るように資料（ノート式）を作成し配布し、パワーポイントを活用し授業を進めた。パワーポイントで映している内容は一字一句全部写すのではなく、話している内容を含めメモを取り、復習時に役立ててもらいたいことを学生に伝えていた。しかし、授業評価の結果、写すことに必死で話している内容が入っていないという意見があった。以前、同じ様式の資料を活用して、学生から復習時役に立ったという意見が多かったこと、今回の授業評価で「細かい看護内容が知ることができた」「丁寧に教えていただけた」などの意見があったことから、今までのスタイルを継続していくか否か検討中である。

2. 今後の授業における目標

授業の中で重要な点が分かるよう、話し方を工夫する。

（授業で必ず押さえてもらいたい内容については授業を進めていく中で繰り返し伝えていたが、繰り返すのみでは伝わらなかったようである）

3. 受講学生に対する要望

自己の取り組みに対する評価は3点台と普通であるが、授業で活用するテキストが分からないまま授業を受けていたり、資料を忘れてきたりと自ら学ぶという姿勢が希薄であるように感じる。受身でなく主体的に学修するよう取り組んでももらいたい。

◆ 小児看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業前に小テストを取り入れ、学生の授業参加および理解力の向上を期待した。その結果、学生の自己の取組に対する評価において、態度の評価は、全学および全学科と比較すると高い評価点を得られている。また、授業外の評価も全学および学科の評価点より高い評価点を得ることができている。さらに、学生の「小テストがあるから予習できる」「予習をする習慣を身につけた」「学習全体の取り組み方がよくわかった」などの記述による評価結果からも学生の学習成果につながったと考える。一方、「小テストの範囲がわかりにくい」「難しい」などの意見があり、この点については、学生の意見を参考に改善していかなければならない。

2. 今後の授業における目標

小児看護学概論の理解が、小児看護援助論および小児看護演習、さらに、小児看護学実習に結びつく授業を行なう。

3. 受講学生に対する要望

学生は、積極的に学修する力を養ってほしい。

◆ 公衆衛生学

1. 授業評価の結果に対するコメント

教員の取り組みに対して高評価をいただき、授業への工夫、努力への評価と感じている。

参加型を意識して取り組んだが、一番低い項目が「参加」であったため、学生が参加をした、と自覚できるような授業を今後考えていきたい。

自己の取り組みについては、項目によりばらつきがあり、特にシラバス、授業外が低かった。授業内容に関心をもってもらい、学び、理解する態度は得られたが、授業内に留まっており、能動的な学習として発展していないと感じた。

シラバスに目を通すことは、第1回の講義で伝えているが、浸透していないと改めて感じた。また、公衆衛生学は日常生活と直結している学問であるので、授業外での学びへの意識を高める工夫を行いたい。

多くの学生が評価に取り組んでくれたことに感謝する。

2. 今後の授業における目標

公衆衛生はすべての医療・保健・福祉・看護領域とつながっているが、非日常（パンデミック、災害等）で注目はされるが、日常的には意識されることが少ない領域である。

日常の中に溶け込んでいる公衆衛生という視点を意識することができるよう、毎回の授業の中で投げかけ、意識づけができるような授業の構成を考えてきたい。

3. 受講学生に対する要望

授業で参加する内容では非常に多くの意見が出された。

しかし、授業の中での投げかけへの反応が乏しい（知っているか、知らないか等の投げかけ）自分たちの理解度などの意思を表出する力をつけてもらいたい。

1年前期ということもあるが、レポートの表現力に磨きがかかると、今後の学修がより豊かなものになるので、文章表現力を身につけてもらいたい。

学習態度から、今後を期待したい学生たちであった。

◆ 在宅看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度は、私自身2つのことを目標にして講義に取り組んだ。ひとつは、私が教授する科目において、学生に苦手意識をもたせないこと、もう一つは、講義が一方通行的にならないように、学生参加型（学生の参加を意図した）授業を展開することである。学生が主体的に取り組めるように、学生が相互に交流することで互いの考え方や意見を理解し、啓発し合えるように授業を進めた。具体的には、事前に課題を出し、その課題をもとに学生同士で討論させ、資料にまとめさせた。さらに、プレゼンを行う機会を設定し、その会の司会進行、発表者に対する評価も学生に実施させた。

また、苦手意識を持たせないについては、資料を分かりやすく作成し、また、学生が苦手とする社会制度については、90人という多人数を2教室に分けて2名の教員で対応した。学生と教員とのコミュニケーションが図りやすくなり、一つ一つわからないところを解消して、次に進むということができたように感じる。その結果、理解度の評価3.5（キャンパス・学科平均3.2）、参加度の評価3.6（キャンパス・学科評価3.3）という評価に繋がったと考える。さらに、コメントには「人数を半分に分けて、半数で教えてくれたことで理解しやすかった。」「グループワークによっ

て、いろいろな意見が聞けて考え方が広まった。」「分かりやすく、楽しい授業であった。」とあり、教授するものとして、嬉しい評価を受けることができた。しかし、グループワーク（討論）のあり方についてはまだまだ改善の余地があり、グループワークの質が向上するよう努めていきたい。

2. 今後の授業における目標

- ・今後も学生参加型の授業を展開していきたい。また、意見交換させるとき、学生がもう少し論理的に話せるようにするのはどうしたらよいのかを考えていきたい。このことが次年度への課題である。

3. 受講学生に対する要望

- ・学生自身も自ら学ぶとはどういうことなのか考えてほしい。

◆ 老年看護援助論

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生への発問や問いかけなどのかかわりは、大小関わらずクラス全体で共有できる機会という意識をもって講義の展開をおこないたい。

2. 今後の授業における目標

学生参加型の授業構成の増加

3. 受講学生に対する要望

講義は双方向性であるということの意識をもってほしい

【 総合教育センター 】

◆ 生活環境論

1. 授業評価の結果に対するコメント

講義科目は聴くことが多く、作業的な活動に取り組んだり、発表活動をしたりすることが少ないので、授業にこうした活動をできるだけ取り入れるように努めましたが、十分であったとは言えませんでした。評価結果では「参加」や「雰囲気」が相対的に低い傾向が見られ、努力不足を痛感しています。また、「強調」も相対的に低いので、大切なところをしっかりと指摘できるよう努力していきます。

2. 今後の授業における目標

教養科目は、その内容自体よりも課題のとらえ方や解決に向けた思考方法等が重要であろうと思います。またそれらをしっかりと取り組むためには、興味関心を持って望むことも重要だと思います。これらのことについて、きちんと授業の計画を組み立てるとともに、新しい学びの活動なども取り入れながら、学びに向けた気持ちを高められるような授業を行っていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

シラバスをしっかりと読んでおきましょう。世の中のいろいろなこと（特に、これまであまり考えてこなかったことに）できるだけ興味や関心を持ちましょう。せっかくスマホなどの進んだ情報機器を持っているのですから、世の中のことを調べることに活用しましょう。調べたことを少しでもまわりに発信できるようになりましょう。

本学の教職員は これからも
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。これは、毎年実施している学生による授業評価の結果へのコメントをはじめとして、本学の教員が学生からの声に耳を傾け、授業改善への努力を日々重ねていることの表れだと思われます。大学の授業は、従来のように教員が一方的に行うものではなく、学生とのやり取りによって作り上げてゆくものへと変化しています。今後も大垣女子短期大学の特色を生かして、より質の高い教育を実践していきます。



総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
平成 30 年度前期は以下の教員が顕彰の対象になりました。

「看護過程演習」

